

アフリカ子どもの本プロジェクト(JACBOP) 2015 年度活動報告

1、概況

本会も結成 10 年を超えました。毎月の運営会や、選書会、フェイスブックでの発信は地道に続けております。それに加え今年度はウェブサイトも新たにし、こまめに発信していく体制を整えました。ご好評をいただいていた「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本」展も最近では希望団体が少なくなっていますが、今後はさらに広報に努めたいと思っています。アフリカは地理的にも日本からは遠い場所ですが、日本の政治家達が内向きになってきている現在、異なる文化について知り、異なる人々と友だちになることは、これまで以上に重要になってくると思われまます。私たちのグループもそれを支えるささやかな力になりたいと思っています。

また 2015 年度末でケニアのドリームライブラリーを現地で支えていた日本の NPO「少年ケニアの友」とその委託を受けたケニアの NGO「ドレスチコ」が解散することになり、ドリームライブラリーは私たちのグループが単独で支援しなくてはいけなくなりました。年会費の値上げもそのためです。ほかにも様々な問題が山積する中で、異文化交流には困難がつきものだと肝に銘じつつ、少しずつよい方向をさぐっていきたいと思います。会員がそれぞれ本業を持っているため、ゆっくりの歩みですが、どうぞ見守っていただければ幸いです。

2、会員数

2014 年度末の会員数は 96 名でしたが、2015 年度末には 111 名となりました。

3、2015 年度活動報告(2015.4-2016.3)

3-1 運営会の開催

毎月 1 回運営会を持ち、アフリカへの支援、選書や図書展、イベント等の打ち合わせを行いました。

3-2 ドリームライブラリー等の支援

3-2-1 ドリームライブラリーの現状 (2016 年 3 月末まで)

(1) 場所

- ・エンザロ・ドリームライブラリーは西ケニア州の山間の村にある。電気・水道・ガスなどのインフラなし。地元の人が多くが天候次第の農業で生計を立てており、現金収入はほとんどない。
- ・シャンダ・ドリームライブラリーは西ケニア州のカカメガの森のそばのシャンダ小学校敷地の中にある。電気は近くまで引けている。水道・ガスはなし。地元の人が多くが天候次第の農業で生計を立てており、現金収入はほとんどない。

(2) 開館時間

- ・エンザロ DL 火～土曜 09:00-17:00 日曜 14:00-17:00 (週 43 時間)
- ・シャンダ DL 火・水・土曜 09:00-16:00 日曜 14:00-17:00 (週 24 時間)

(3) ライブラリアン

- ・エンザロ DL : ピーター・インブーカさん (男性。1977 年生まれ。セカンダリー学校卒業後シガラガラ職業専門学校で 3 年間学び卒業。2004 年から勤務)
- ・シャンダ DL : アイリーン・ナムニユさん (女性。1987 年生まれ。セカンダリー学校卒業後シガラガラ職業専門学校で 2 年間学ぶ。2010 年 8 月から勤務。途中 3 か月間産休取得)

(4) ライブラリアンの給料 (1 シル=約 1.07 円)

- ・エンザロ DL: ピーターさんに 8000 シル (*2016 年 4 月から 9000 シルに)
- ・シャンダ DL: アイリーンさんに 4000 シル (*2016 年 4 月から 4500 シルに)

(5) 近年の「少年ケニヤの友」(日本の NPO) およびドレスチコ(前者の支援を受けたケニアの NGO)によるサポート

- ・図書館の建物の修理費用
- ・新聞購読料
- ・図書館運営の監督

(6) 近年の「アフリカ子どもの本プロジェクト」によるサポート

- ・必要な本と教科書の購入

8 月のドリームライブラリー訪問時に、エンザロに英語の絵本や事典などを 53 冊、スワヒリ語絵本 7 冊と紙芝居 3 点、シャンダに英語の絵本や事典など 26 冊を持参。

2016 年 2 月にエンザロ・ドリームライブラリーに紙芝居舞台を送付。(紙芝居文化の会から購入費用及び送料の寄付をいただいた)

教科書は、訪問時にドリームライブラリーの図書館委員会から要請があり、それに応じる形で送金し、ドレスチコに手配を依頼。

- ・ライブラリアンの給料
- ・ライブラリアン向け資料「How to run the Library~Librarian's handbook~」作成

タンザニアで活動していた会員の鈴木晴子、田中友紀にアドバイスを受け、佐藤見果夢を中心に handbook を作成。8 月のドリームライブラリー訪問のときに 2 名のライブラリアンに手渡す。

- ・本の修理、カラーテープ、スタンド照明などの備品供給

3-2-2 ドリームライブラリー訪問について

(1) 期間: 2015 年 8 月 15 日~25 日

(2) 訪問者: さくまゆみこ、佐藤見果夢、ほそえさちよ

(3) 現地での活動

8 月 15 日: 日本出発

8 月 16 日: 車と運転手を旅行会社に手配してもらい移動

8 月 17 日: キスム、エンザロ

10:00~12:00/キスムのホテルでドレスチコのムヌベさん、ギルバートさん、ジョゼフさんおよび「少年ケニヤの友」理事の赤阪玲子氏と打合せ、スケジュールの確認。

14:00~16:30/エンザロでライブラリアンのピーターさんと話し合い。ライブラリアンの仕事の説明、本の修理についてのレクチャーと実践、紙芝居や読み聞かせの依頼(楽しい場所にするため)などを行った。

8 月 18 日: エンザロ

10:00~12:30/①子どもたちによる歓迎の歌 ②子どもたち対象のお話会…近くの幼稚園の子どもたち、および図書館の近くの子どもたちが合計 70 名ほど集まってきた。日本からの 3 名で手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居、折り紙を行い、ピーターさんもスワヒリ語の絵本の読み聞かせを行った。

13:00~15:00/図書館委員会メンバーとの話し合い

15:00~16:30/ランチ。ウズラのグリル、塩ゆでの鶏肉、ウガリ、ライス、ゆでたスクマ・ウィキ、ゆで卵、サラダという食事をみんなで食べる(ランチ費用は「少年ケニヤの友」が負担)。

8 月 19 日: シャンダ

10:30~/校長先生やライブラリアンのアイリーンさんと顔合わせ。図書館見学。

11:00~12:30/①シャンダ小学校の子どもたちによる歓迎イベント(ダンス、歌、詩の暗唱、スピーチ、朗読劇など)②子どもたち対象のお話会…シャンダ小学校の生徒たち 100 名以上が集まってきた。日本からの 3 名で手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居を行い、アイリーンさんがスワヒリ語の昔話を読み聞かせた。

12:30~13:30/ライブラリアンのアイリーンさんとの話し合い。ライブラリアンの仕事の説明、本の修理についてのレクチャーと実践、紙芝居や読み聞かせの依頼（楽しい場所にするため）などを行った。

8月20日：シャンダ、カカメガ

10:00~12:00/シャンダの図書館委員会と話し合い。

12:30~13:30/塩ゆでの鶏肉、ウガリ、ゆでたスクマ・ウィキ、サラダという食事をみんなで食べる（ランチ費用は「少年ケニヤの友」が負担）。

15:00~16:00/カカメガ ナショナル・ライブラリー（公立図書館）見学。子ども室もあるが、蔵書はほとんどが寄贈されたもの。

8月21日：エンザロ、キスム

午後/エンザロでピーターさんと話し合い。レクチャー（紙芝居について、蔵書点検など）。蔵書確認。リハンダ家訪問。リハンダ家でランチをごちそうになり、アレックス・オバンガ君の奨学金の依頼を受ける。

16:30~17:30/キスムでドレスチコ事務所訪問。事務的な手続きと今後の見通しについての話し合い。

8月22日、23日：ナクル湖で静養。

8月24日：ナイロビの書店で図書を購入。

8月25日：帰国

(4) エンザロの図書館委員会と話し合ったことの要旨

〈分かったこと〉

- ・図書館は地域に大きく貢献している。
- ・子どもたちが勉強や読書をするようになって学校の成績が上がり、大学に進学する者も出て来た。（2014年2人、2015年5人とのこと）
- ・子どもたちは、わからないことがあれば図書館で調べるとわかると感じている。
- ・この地域の子どもがほかの地域の子どもと触れあう機会が増えた。
- ・図書館に敷地については様々な変遷を経て、現在に至っている。その変遷については図書館委員会の長であるアレンゴ氏しか知らないのので文書で残すため MoU を作成しておく。（→これについては、アレンゴ氏が公務員なので私的な機関の公的文書を作成するのはまずいという理由で未だできていない。なのでドレスチコのムヌベさんに依頼して話し合いの席上出た事実関係を議事録のかたちで残すことにした。）

〈図書館委員会からの要望〉

- ・委員会を開くときのお茶とスナック代、交通費、参加費などを出してほしい。（→これについては、遠くから徒歩で通ってくるメンバーにとっては必要と判断し、またほかの国際 NGO などみんな支出していることから、2016年度から委員会の会合を開くたびに 2000 シルのお茶とスナック代を JACBOP が負担することにした）
- ・政府は教科書無償配布を約束しているが、実際には教科書を持っている子どもは 5 人に 1 人くらいなので、図書館に教科書を入れてほしい。（→これについては、その後教科書を購入する費用を JACBOP が送り、購入してもらった）
- ・屋根の修繕をしてほしい。子どもの視力が衰えないように壁を白く塗ってほしい。（→これについては、JACBOP がソーラー電気スタンドを 3 台寄贈。屋根と壁についてはその後「少年ケニヤの友」の費用でドレスチコが修理の手配を行った）
- ・ライブラリアンの給料を上げてほしい。（→これについては、JACBOP が 2015 年 10 月にピーターさん、アイリーンさんとも昇給を行い、2016 年 4 月にも再度昇給を行った。）

〈JACBOP からの要望〉

- ・「少年ケニヤの友」（およびそこから支援を受けて活動していたドレスチコ）の解散に伴い 2016 年 4 月から図書館の支援は JACBOP が全面的に引き継いで行うが、「少年ケニヤの友」のような大きな予算を組めないため、地元の方たちや委員会も自助努力をしてほしい。
- ・図書館を楽しい場所にするため、ピーターさんは特に小さい子対象の読み聞かせや紙芝居を定期的に行ってほしい。

(5) シャンダの図書館委員会と話し合ったことの要旨

〈分かったこと〉

- ・ シャンダ・ドリームライブラリーはこの小学校の生徒だけでなく、地域の子どもたちにも利用されている。
- ・ 子どもに勉強する習慣がついたし、教科書以外の本に触れて視野を広げることができるようになった。
- ・ 貧しい子どもでも図書館を利用して勉強することによって大学に進学できるようになった。
- ・ 新任のブリモ校長は、別の学校で図書館を作った経験もある方（ただし建物はできたが図書購入の予算がなかったとのこと）で、子どもの読書の重要性についてはきちんと認識しておられた。

〈図書館委員会からの要望〉

- ・ 教科書を持っている子が少ないので図書館に教科書を入れてほしい。（→これについては、その後教科書を購入する費用を JACBOP が送り、購入してもらった）
- ・ 毎日開館してほしい。（→これについては毎日開館する場合のライブラリアンの給料を JACBOP が提示したが、アイリーンさんはピーターさんより高い給料を要求して譲らなかったため現実化していない）
- ・ 現在平日しか講読していない新聞を土・日分も購入してほしい。（→これについては、「少年ケニアの友」が 2016 年 3 月までは負担して購入。2016 年 5 月からは平日・週末とも JACBOP が負担して毎日講読することに。土・日の新聞には子ども欄もあるため必要と判断した）
- ・ 図書だけでなく CD やカセットも入れてほしい。ラップトップかタブレットを入れて蔵書管理がコンピュータ処理できるようにしてほしい。
- ・ 委員会を開くときのお茶代とスナック代、交通費、参加費などを出してほしい。（→これについては、エンザロと同じ理由で、2016 年度から委員会の会合を開くたびに 2000 シルのお茶とスナック代を JACBOP が負担することにした）

〈JACBOP からの要望〉

- ・ 自分たちでできることは自助努力をしてほしい。（→これについては、ブリモ校長が地元の政治家や団体にも支援をあおぐ努力をすると約束した）
- ・ たとえば蔵書点検、書棚の整理、本の修理などは、村の人や生徒にもボランティアで手伝ってもらえるはず。
- ・ 地域にはまだまだシャンダ小学校の図書館だと思っている人も多いはずなので、広報をして地域の図書館だということをアピールしてほしい。

3-2-3 ドリームライブラリー支援にかかわる JACBOP の方針（文書にして 2016 年 3 月に両図書館委員会に伝えました）

- ・ 相互の信頼を築いていくためには、現地の図書館委員会と JACBOP の双方が誠実に行動し、約束を守ることが重要だと考えている。委員会のメンバーには、自分たちの利益より、子どもたちのことを優先してもらいたい。（これはエンザロの委員会の長であるアレンゴ氏が図書館の半分を自分の事務所として使いたいと言い出したため、今後もそういう事態が起こらないように入れた。）
- ・ ドリームライブラリーは、何よりもケニアのこの地域の子どものための図書館であり、JACBOP はライブラリアンを雇って図書館から利益をあげようとする団体ではない。地域の方々や図書館委員会のメンバーは、自分の子どもたちのためだという認識を深め、積極的にこの図書館を支える努力をしてほしい。
- ・ JACBOP は友情を基盤として援助を続けるが、予算が潤沢にあるわけではないということを理解してほしい。
- ・ JACBOP は、2015 年 8 月の訪問時に見聞きし、話し合った事実に基づいて支援を行う。もし何らかの変更を個人あるいは団体が企てている場合には、事前に JACBOP に知らせてほしい。

3-2-4 今後のドリームライブラリー支援

- ・2016年3月末に、「少年ケニアの友」とドレスチコが解散し、2016年4月からはJACBOPが図書館支援を単独で行うことになりました。
- ・ライブラリアンの給料、新聞購読、図書や教科書の購入、委員会を開く際のお茶代などは定期的にJACBOPが支援します。
- ・送金やライブラリーの見回り、現地との連絡役などは、京都大学の松田素二先生のグループの方に協力を依頼します。(松田先生はケニアを研究のフィールドにしており、8月のドリームライブラリー訪問で、どちらの図書館委員会の打ち合わせにも同席し、スワヒリ語⇄日本語通訳の労をとってくださいました。また、松田先生のグループの2名の方も立ち会ってくださいました)

3-2-5 アフリカのその他の支援

2015年度はありませんでしたが、ホームページでの活動報告を見て、ドリームライブラリー以外からアフリカへの図書支援の要請があれば、検討して応じていきます。

その際、ライブラリアンのハンドブックも同封するなどして活用していきます。

3-3 アフリカのことを知らせる活動

3-3-1 「アフリカを読む、知る、楽しむ、子どもの本展」

1) 「アフリカを読む、知る、楽しむ、子どもの本展」(プロジェクトおすすめの本約120点とパネルなどのセットにした図書展。有償で貸し出し)は、本年度は開催されませんでした。2016年度は、3件の展覧会が予定されています。さらに引き続き、開催団体の募集を続けています。

3-3-2 ケニア訪問報告会(東京)

日時: 11月22日(日) 午後1時30分~3時30分

会場: 築地社会教育会館 講習室

タイトル: 「子どもに本の楽しみを~ケニアのドリームライブラリーを訪ねて~」

共催: 中央区地域家庭教育推進協議会

<内容>

- ① はじめに2005年に同協議会との共催で、中央区アートはるみで2週間にわたり展覧会・イベントを実施したことにより、プロジェクトの具体的な活動が始まった関係を紹介。
- ② オープニングのアフリカンダンスと太鼓と歌により、異文化を楽しむ。
- ③ ドリームライブラリーを訪ねて(発表者: 佐藤見果夢、さくまゆみこ、ほそえさちよ)
エンザロとシャンダの2つの図書館のスライドを見ながら、子どもたちが本を読んだり勉強に来ている図書館の様子や日本から持参した絵本の読み聞かせなど交流会の様子、地域の人たちによる図書館委員会の関わり等現地を訪問しなければわからなかったことをいろいろな角度から紹介。アフリカの支援の在り方の難しさや今後の具体的な支援についても話しました。

<実施報告>

- ・参加者: 72名(会員17名、一般51名、子ども4名)
- ・新規入会者: 8名
- ・会場は社会教育施設のため物販はできないが、寄付やカンパの御礼として「エンザロ村のかまど」や絵葉書を提供。当初の予定より30分延びてしまいましたが、参加者の多くが最後まで参加し、後片付けの手伝いや個別に質疑をする姿が目立ちました。
- ・会場内に、若干のパネル展示と小さい子どものための読み聞かせコーナーを設けました。

3-3-3 ケニア訪問報告会（京都）

日時：2月23日（火）午前10時～12時

会場：ひとまち交流館京都第5会議室（発表者：さくまゆみこ）

タイトル：「子どもの本を窓にして世界を知る」

主催：京都市子ども文庫連絡会

以下は参加者から寄せられた声です。

ケニアにある「エンザロ・ドリームライブラリー」と「シャンダ・ドリームライブラリー」訪問の報告を写真と共にして頂きました。どちらもさくまさんたちの尽力によって設立された図書館です。故沢田としき氏の絵がドアや壁に描かれているのを感慨深く見る事が出来ました。蔵書1800冊ほどの図書館で熱心なライブラリアンのアドヴァイスを受けながら本を読む子どもたちの姿、また、ぼろぼろになった本を決して捨てることなく修繕を重ねて使用しているため（サランラップまで利用して）日本のブッカーがとても役立ったこと、ソーラースタンド寄贈などのお話からも、小さな図書館が大切にフルに活用されていることがわかりました。村の子どもたちが大学を目指すことは稀で難しかったのが、図書館が出来、そこで勉強して大学に行く子どもが出てきたことが嬉しいとの説明もありました。ただ、勉強ばかりでなく、本には楽しみもあることがまだ伝えきれないそうです。

外の青空の下でのおはなし会の様子はとても楽しそうで、たくさん子ども達が絵本や紙芝居に大きな瞳を輝かして聞いている笑顔が印象的でした。また子ども達による外国人への歓迎ダンスや、詩の朗読をしている姿も見ることができました。子どもの楽しむ姿はいつ見ても良いですね。とても温かい気持ちになり思わず微笑みます。

ケニアの青空と素朴な図書館と子ども達の歓声、そして音楽が聞こえてくるようでした。

こども図書室らびっと 小谷敦子

（京都市子ども文庫連絡会発行「市庫連ニュース」2016年3月7日号より）

3-3-4 JBBY主催「子どもの本の日フェスティバル」で読み聞かせ

「世界おはなしリレー」の最初の30分間で、さくまが、ドリームライブラリーとプロジェクトの概要を説明したあと絵本3冊の読み聞かせしました。（発表者：さくまゆみこ、佐藤見果夢、宇野和美）

3-4 「アフリカに関する児童書 おすすめリスト」の選書

アフリカを知るために読んでほしい本をプロジェクトで選び、ホームページ「おすすめの本」に掲載しています。ホームページの「おすすめの本リストPDF」は2015年10月現在のものに更新してあります。

2015年度は、運営会のときに21冊を検討し、以下の8冊をおすすめリストに入れました。

4月 2冊検討

『あたし、メラハファがほしいな～さばくのくにモーリタニアのおはなし』
（ケリー・クネイン文 ホダー・ハッダーディ絵 こだまともこ訳 光村教育図書）
をおすすめリストに加える。

5月 2冊検討

『ふたごのゴリラ』（ふしはらのじこ作 福音館書店）
『しんぞうとひげ』（しまおかゆみこ再話 モハメッド・チャリンダえ ポプラ社）
をおすすめリストに加える。

6月 3冊検討

『希望のダンス～エイズで親をなくしたウガンダの子どもたち』（渋谷敦志文・写真
学研教育出版）をおすすめリストに加える。

『渋谷ギャル店員 ひとりではじめてのアフリカボランティア』（栗山さやか著 金の星社）は、既刊本『なんにもないけどやってみた～プラ子のアフリカボランティア日記』（岩波ジュニア新書）の解題に書名を追加することにした。

- 1 1 月 7 冊検討
『エチオピア：ナティはたよれるお兄ちゃん』（東海林美紀 偕成社）
『セネガル：貝がら島のマドレーヌ』（小松義夫 偕成社）をおすすめリストに加える。
- 1 2 月 7 冊検討
『ぼくが5歳の子ども兵士だったとき～内戦のコンゴで』ジェシカ・ディー・ハンフリーズ／ミシェル・チククニネ作 クローディア・ダビラ絵 渋谷弘子訳（汐文社）
『ゴリラが胸をたたくわけ』（たくさんのふしぎ傑作集）山極寿一文 阿部知暁絵（福音館書店）をおすすめリストに加える。

今後もアフリカ関連の本の刊行が増えそうなので、出来るだけ毎月選書会の時間を持ち、おすすめリストを充実させたいと思います。

選書会に出席できる人が限られて来ているので、来年度も地方の会員をはじめ、多くの方に本を読んでもらい、意見をメール等で募り、選書に反映させたいと思います。

3-5 支援グッズの製作・販売

オリジナルTシャツ、会員の画家（故沢田としき、伏原納知子、向井晶子、たかぎちほ）による絵ハガキセット、『エンザロ村のかまど』（英語版・スワヒリ語版）などを、イベントやホームページで販売しました。

3-6 ホームページの更新

ホームページをリニューアルし、URLが変わりました。 → <http://africa-kodomo.com/>
これに伴い旧ホームページは閉鎖、ブログは新ホームページでご覧いただけるようになりました。新ホームページでは、ブログページで定例会の様子や日常のご報告を、お知らせページで展示や会員関連の講演情報などもお伝えしますのでご覧ください。

他にインターネットでは、引き続きメールによるプロジェクト・ニュース配信と、フェイスブック（<https://www.facebook.com/africachildrenbooks>）を利用した情報発信を実施しています。

フェイスブックページでは、2016年4月23日現在、「いいね！」をクリックして下さった方は320名。ホームページとのリンクを含め、今後もホームページとフェイスブックの内容の充実していきます。

3-7 「プロジェクト・ニュース JACBOP NEWS」の発信

電子メールを使って、運営会の報告、新会員の紹介、ケニアのドリームライブラリーの様子その他を会員向けに19回発信しました。

4、会計報告（2015.4.1～2016.3.31）（省略）

5、予算（2016.4.1～2017.3.31）（省略）

(5) 第578号 (第三種郵便物認可)

読書推進運動

平成28年1月15日



エンザロ・ドリームライブラリー
外観

子どもたちの未来を支える ケニアのドリームライブラリー

「アフリカ子どもの本プロジェクト」

アフリカ子どもの本プロジェクト会員・編集者 ほそえさちよ

『エンザロ村のかまど』(福音館書店)という絵本を「存じてしようか。電気も水道もない村で、生活改善・保健栄養指導を行っていた岸田製袋さんが、レンガと土で作るかまどやバナナの茎の皮やサイザル麻を編んだ草履を伝え、たくさんの人々の暮らしが変わっていった様子を描いています。当時、ケニアではHIV感染で親を亡くした子どもが増えており、昔ながらの語り文化を享受する機会も減っているように思いました。子どもたちに本を読む楽しさを知ってもら

わった有志で設立したのが「アフリカ子どもの本プロジェクト」です。2008年には2館目の図書館、シャンダ・ドリームライブラリーをケニア西部、カカメガ地区のシャンダ小学校にオープン。現在、この2館の運営を支える活動(司書の給与、本の寄贈など)と、日本の子どもたちにアフリカのことを知ってもらう活動(「アフリカを読む・知る・楽しむ子ども本展」)の開催、お勤め本の紹介などを中心に取り組んでいます。昨年8月、プロジェクト代表で翻訳家のさくまゆみこ、翻訳家で会計担当の佐藤見真夢、編集者

で選書担当のほそえの3名がエンザロとシャンダのドリームライブラリーを訪問しました。エンザロで開館当初から司書として勤務しているピーターさんは、1時間以上かけて徒歩で隣村から週6日出勤。月に数回まとめて届けられる新聞のヘッドラインをまとめ、目的の情報を取り出しやすくしたり、子どもたちに本を紹介したり、本の整理をしたりと、大忙し。たぐさんの子に読まれ、表紙がはずれかかったり、ページがボロボロになった本が多くありました。「あまりに状態のひどい本は廃棄を」と伝えると、「それはできない。まだ読めるではないか」と言われます。それだけ活字や本が大切にされているのです。日本から持参した修繕用テープは、たいへん喜ばれました。

プロジェクト作成の図書司書用ハンドブックを一緒に見ながら、本の修繕の仕方をレクチャーしたり、蔵書チェックの仕方や児童サービスの内容を相談するうちに、ピーターさんの表情がどんどん柔らかくなっていきました。図書館がどういうものなのかまったく知らない人たちの中で、10年間たったひとり司書の仕事を続けるのは並大抵のことではありません。本について話ができる、と

いつかプロジェクトで「What is the Library?」というQ&A形式の英語とスワヒリ語併記のリーフレットを開館時に作って配布したり、学校に渡して図書館の認知を進めました。そのおかげか、この図書館で勉強し、大学まで進む子どもが年々増えていくと、ピーターさんが笑顔で教えてくれました。

シャンダ・ドリームライブラリーは小学校の敷地内にあります。学校には図書館がないので、休み時間や放課後に、たぐさんの子どもたちがライブラリーに本を読みに来ています。休みの日には、近隣の村の人や卒業生なども来るそうです。シャンダでは交流会で子どもたちが素晴らしいダンスや歌を披露してくれました。どちらの地域でも図書館ができて、子どもたちの教育水準が上がったこと、近隣からの本を読み

おう、また、教育や知識を得ること、自分たちの暮らしを引き上げていくことが大切だという岸田さんの考えを受け、村に子ども図書館を作ることになり、日本の児童書関係者と「NGO少年ケニアの友」の協力で、2004年秋にエンザロ・ドリームライブラリーがオープンしました。

帰国後、この図書館づくりに携わった有志で設立したのが「アフリカ子どもの本プロジェクト」です。2008年には2館目の図書館、シャンダ・ドリームライブラリーをケニア西部、カカメガ地区のシャンダ小学校にオープン。現在、この2館の運営を支える活動(司書の給与、本の寄贈など)と、日本の子どもたちにアフリカのこ

とを知ってもらう活動(「アフリカを読む・知る・楽しむ子ども本展」)の開催、お勤め本の紹介などを中心に取り組んでいます。昨年8月、プロジェクト代表で翻訳家のさくまゆみこ、翻訳家で会計担当の佐藤見真夢、編集者

で選書担当のほそえの3名がエンザロとシャンダのドリームライブラリーを訪問しました。エンザロで開館当初から司書として勤務しているピーターさんは、1時間以上かけて徒歩で隣村から週6日出勤。月に数回まとめて届けられる新聞のヘッドラインをまとめ、目的の情報を取り出しやすくしたり、子どもたちに本を紹介したり、本の整理をしたりと、大忙し。たぐさんの子に読まれ、表紙がはずれかかったり、ページがボロボロになった本が多くありました。「あまりに状態のひどい本は廃棄を」と伝えると、「それはできない。まだ読めるではないか」と言われます。それだけ活字や本が大切にされているのです。日本から持参した修繕用テープは、たいへん喜ばれました。



持参した分類シールを本に貼る、ピーターさん、佐藤さん、さくまさん、NGO職員(左より)

「アフリカ子どもの本プロジェクト」のその他の活動は、ホームページをご覧ください。
(ホームページ) <http://africa-kodomo.com>

としょかん通信 全国SLA写真ニュース 小学生版2月号

**アフリカの子どもと日本の子どもを
本でつなぎ、未来を支える**

アフリカ子どもの本プロジェクトの活動

Q ケニアってどんな国？
A 広大な国で面積は日本より約10倍、人口は約4,400万人です。...

エンザロ・ドリームライブラリー
ケニア西部のエンザロ村にあるエンザロ・ドリームライブラリー。1か月の利用者は、約600人ほど。...

シャンダ・ドリームライブラリー
ケニア西部のシャンダ村にあるシャンダ・ドリームライブラリー。1か月の利用者は、約600人ほど。...

アフリカ子どもの本プロジェクトの活動目的

- 1 アフリカに設立した、子ども図書館「ドリームライブラリー」(現在2館)をサポートする。
- 2 文字の読み書きを覚えるために、読書の楽しみのために、本を必要としているアフリカの子どもたちがあれば、そこに本を届ける。
- 3 日本の子どもたちに、アフリカの文化やアフリカの子どもたちのことを伝える。

アフリカ子どもの本プロジェクト ウェブサイト
http://africa-4kids.com

としょかん通信 全国SLA写真ニュース 中・高校生版2月号

**アフリカの子どもと日本の子どもを
本でつなぎ、未来を支える**

アフリカ子どもの本プロジェクトの活動

Q ケニアってどんな国？
A 広大な国で面積は日本より約10倍、人口は約4,400万人です。...

エンザロ・ドリームライブラリー
ケニア西部のエンザロ村にあるエンザロ・ドリームライブラリー。1か月の利用者は、約600人ほど。...

シャンダ・ドリームライブラリー
ケニア西部のシャンダ村にあるシャンダ・ドリームライブラリー。1か月の利用者は、約600人ほど。...

アフリカ子どもの本プロジェクトの活動目的

- 1 アフリカに設立した、子ども図書館「ドリームライブラリー」(現在2館)を継続的に支える。
- 2 文字の読み書きを覚えるために、読書の楽しみのために、本を必要としているアフリカの子どもたちがあれば、そこに本を届ける。
- 3 日本の子どもたちに、アフリカの文化やアフリカの子どもたちのことを伝える。

アフリカ子どもの本プロジェクトの方から一言

プロジェクトの活動も2年になります。昨年、メンバー3名がドリームライブラリーを訪れ、現地の関係者と今後の活動の方向性について話し合ったり、オリジナルに作成した図書情報ハンドブックを一緒に見ながら、本の届ける方法を検討していただきました。私たちは継続的に地域の子どもたちと関わりあえるよう頑張りたいと考えています。

アフリカ子どもの本プロジェクト ウェブサイト
http://africa-4kids.com